

鹿児島の昆虫 66

久しぶりの発生確認！ ヤシオオオサゾウムシ

昆虫担当 中峯 敦子

当館では現在、企画展「ひょっこりエイリアン」を開催しています。展示では、最近話題に上るヒアリやハイイロゴケグモなどの標本も御覧いただいています。展示を楽しみながら「外来種」について考えてくださるとうれしいです。

さて、鹿児島にひょっこりやってきた外来種、今回は特に昆虫の話題を紹介します。

ヤシオオオサゾウムシ
オサゾウムシ科
Rhynchophorus ferrugineus



■どんな昆虫？

ヤシオオオサゾウムシ（以下ヤシオサと表記）は、体長 22～35mm 程度の甲虫です。原産地は東南アジアですが現在、日本を含め台湾、中国、インド、



枯れたフェニックス

地中海沿岸（中東及びヨーロッパ）、オーストラリア、米国など分布を拡大しています。日本には、ヤシ類の輸入や植栽に伴い、沖縄県で初めて侵入が確認されました。その後、2000

年前後に宮崎県及び鹿児島県南薩に被害が出ると、10年ほどの間に本州まで被害は北上、当時は各地でニュースになりました。ヤシオサの幼虫は、ヤシ上部の葉の付け根（葉柄基部）や幹の中の材を食害し、枯死させます。国内では大型のヤシの仲間では通称：フェニックス（*Phoenix canariensis* カナリーヤシともよばれる。）の被害が多数報告されています。



幼虫に食害された葉の付け根（葉柄基部）

■最近の被害は？

近年、その被害を見聞きしなくなっていたところ、先日、久しぶりに鹿児島市内で被害木を見つけました。被害木に近づくとヤシの根元には2m余りもある朽ちた葉が散らばっていました。食痕（幼虫が食べた後）やヤシの繊維で作られた繭が、いくつも見られ、明らかにヤシオサの被害で枯れたことが分かりました。



葉柄から出てきた繭

■その影響は？

ヤシオサはヤシ上部に薬剤を散布したりネットをかけたりして防除します。また枯死したヤシは伐採後、焼却して処分します。しかしその費用は、なんと1本10万円余り。

フェニックスも実は外来種です。南国らしい景観づくりのために、かつてたくさん植栽されました。外来種として50年近い歴史をもつヤシオサとの外来種同士の攻防に、鹿児島の人々が防除や処分に労力を費やし、経済的負担を負っていることに矛盾も感じます。

一度入った外来種は10年たっても20年たってもモニタリングを継続する必要があります。わたしたちの生活、生態系に影響を与える存在だということは忘れてはいけません。